

1. 笑顔でたのしくレッスンをしましょう。
2. 相手のレベルに合わせて分かりやすい言葉を使いましょう。
3. 難しい言葉はタイピングをしながら話しましょう。
4. 「話すこと」よりも「聞くこと」に重点をおきましょう。
5. 学習者が話すのを手伝いながら、根気よく聞きましょう。

レッスンの進め方

- 初. レッソンの初めは、お互い緊張するものです。緊張していると楽しく授業ができません。挨拶のあとに、「アイスブレイク」が必要です。
どうして日本語を覚えたいか、何に興味があるかなどについて、
5分～10分ほど話をしましょう。
1. まず、今日のニュースのテーマを言い、講師が先に内容を一文ずつ読みます。
生徒には後について読んでもらい、発音やアクセントを直してあげてください。
時間が掛かり過ぎるのであれば、途中で止めてください。（10分ほど）
 2. ニュースの内容で分からないところが無いか確認しましょう。
説明する時は、簡単な例文をいくつか挙げると伝わりやすいです。
どう答えたらよいか分からない時は、後で調べて連絡するようにしましょう。
 3. 内容に対する質問をし、しっかりと理解しているかを確認をしてください。
 4. このニュースが伝えたいことはなにか、簡単に説明してもらってください。
 5. ニュースを見て思ったこと、感じたことを話しあいましょう。
※事前に感想を考えておいてください。
 6. ニュースから話を発展させるための質問をしましょう。
最後に、今日の良かった点や反省点をまとめ、レッスンを終わります。

No.166 タカタ 民事再生法の適応申請 東京地裁に受理される

[2017年06月26日 NEWS WEBより]



<http://www.asiaq.net>

事前にニュースを聞き、授業の準備をしてください。

上級者向け・・・リンクが削除されている場合は、3ページ目を参照ください。

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20170626/k10011030331000.html>

ニュースの内容に対する質問例

- ・タカタは何をきっかけに世界各国でリコールが拡大しましたか？
- ・1兆円を超える負債総額には何の費用が含まれていますか？
- ・民事再生法の適用申請が受理され、タカタは今後、事業をどう行いますか？
- ・タカタはなぜ経営破綻に追い込まれることになりましたか？

このニュースが伝えたいこと（例）

- ・タカタは、アメリカでエアバッグの不具合が原因となった死亡事故が相次いだことをきっかけに世界各国でリコールが拡大し、負債総額は1兆円を超えています。
- ・タカタは経営に行き詰まり、裁判所に民事再生法の適用を申請し、受理されました。
- ・タカタは大規模なリコールへの対応の遅れなどで消費者や関係企業の信頼を失い、経営破綻に追い込まれました。

話を発展させる質問例

- ・タカタの顧客や従業員、取引先への今後の支援は？ → 4ページ
- ・工場がある自治体の声は？ → 5ページ
- ・経営破綻への経緯や日本での被害は？ → 6ページ

No.166 タカタ 民事再生法の適用申請 東京地裁に受理される



[2017年06月26日 NEWS WEBより]

<http://www.asiaq.net>

～上級者向け ニュース記事～

タカタ 民事再生法の適用申請 東京地裁に受理される

世界的なエアバッグメーカーのタカタは、アメリカなどで相次いだエアバッグの事故の影響で1兆円を超える負債を抱えて経営に行き詰まり、26日、東京地方裁判所に民事再生法の適用を申請し、受理されました。

タカタは、アメリカでエアバッグの不具合が原因となった死亡事故が相次いだことをきっかけに、日本など世界各地でリコールが拡大し、ことし3月期の決算は795億円の最終赤字に陥りました。

さらに、自動車メーカーが肩代わりしているリコールの費用を含めた負債の総額は1兆円を超えています。

タカタは自主再建の方策を探ってきましたが、関係企業などからの支援が得られないまま経営に行き詰まり、26日、東京地方裁判所に民事再生法の適用を申請し、受理されました。1兆円を超える負債を抱えての経営破綻は、国内の製造業では過去最大だということです。

また、アメリカなどにある海外の子会社12社は25日、アメリカのデラウェア州連邦破産裁判所に、日本の民事再生法にあたる連邦破産法11条の適用を申請して、経営破綻しました。

タカタは今後、裁判所の管理下でリコールの対応などに専念し、それ以外の自動車部品の製造などのすべての事業は中国企業の傘下にあるアメリカの大手部品メーカー、KSS=キー・セイフティー・システムズにおよそ1750億円で譲渡して、両社の事業を統合することで基本合意しました。

タカタは戦後、シートベルトなどの製造で事業を拡大し、エアバッグの分野では、世界の3大メーカーの一角に成長しましたが、大規模なリコールへの対応の遅れなどで消費者や関係企業の信頼を失い、経営破綻に追い込まれることになりました。

No.166 タカタ 民事再生法の適応申請 東京地裁に受理される

[2017年06月26日 NEWS WEBより]



<http://www.asiaq.net>

～上級者向け ニュース記事OP～

タカタ 民事再生法の適用申請 東京地裁に受理される

●エアバッグ回収率は73%

国土交通省によりますと、国内で、タカタ製のエアバッグの不具合に伴ってリコールの対象になっている車は先月末の時点で、1882万台余りに上ります。

このうち、部品の交換が終わった車は1379万台で、改修率は73.3%にとどまっているということです。国土交通省はタカタに対し、交換用の部品の供給が滞ることがないように指導し、自動車メーカーには交換の対応を急ぐよう促す方針です。

●KSS「顧客や従業員の支援続ける」

大手エアバッグメーカー、タカタの事業をおよそ1750億円で買収することで合意した、中国企業の傘下にあるアメリカの大手部品メーカー、KSS＝キー・セイフティー・システムズは、26日、声明を発表しました。

この中で、KSSは「タカタは世界的なリコールの影響を受けてきたが、シートベルトなどの安全製品の強みが失われることはない」と強調したうえで、「タカタの顧客や従業員の支援を続ける」として、タカタの従業員の雇用を守る方針を明らかにしました。

●主力銀行の三井住友銀行が新たに融資枠

主力取引銀行の三井住友銀行はタカタに対し、250億円の融資枠を新たに設けたと発表しました。民事再生手続きが進む間も必要となる取引先への支払いなど当面の運転資金を融資することで、タカタの製品供給が滞らないようにするためだとしています。

●経産相「中小企業支援に万全」

世耕経済産業大臣は「影響を受ける取引先の中小企業の資金繰りに万全を期していかなければならない。政府系金融機関と中小企業団体などによる相談窓口の設置と、一定の取引関係を有する事業者に対する貸し付けを100%保証するなどの対策を早急に講じるよう事務方に指示をした」と述べ、タカタと取引のある中小企業の支援に万全を期す考えを示しました。

No.166 タカタ 民事再生法の適応申請 東京地裁に受理される

[2017年06月26日 NEWS WEBより]



<http://www.asiaq.net>

～上級者向け ニュース記事OP～

タカタ 民事再生法の適用申請 東京地裁に受理される

●タカタ創業の地 滋賀県では

タカタ創業の地で4つの工場がある滋賀県の三日月知事は「長い間、県を代表する企業として地域経済の発展に寄与してきた。引き続き、関連企業も含めて地域での事業活動と雇用の維持に尽くしてほしい。県としても、国や市町、経済団体などと連携し、地域経済や雇用、生活への影響が最小限となるよう**万全**を期したい」というコメントを出しました。

タカタ創業の地、滋賀県**彦根**市に近い愛荘町には2つのタカタの工場があり、町の法人住民税の税収はタカタに多くを頼ってきました。しかし、平成27年度の法人住民税の税収はリコール問題でタカタの業績が悪化したことから前の年度のおよそ半分に減少し、町の財政に大きな影響を与えています。

2つの工場のおよそ700人の従業員のうち、130人が愛荘町の住民で、雇用への不安も広がっています。

宇野一雄町長は経営の再建をいち早く軌道に乗せてほしいという考えを示しました。

●工場のある自治体では不安の声

タカタの完全子会社、タカタ九州の工場がある佐賀県内の地元では雇用などに不安の声があがっています。

タカタ九州の工場は佐賀県多久市と有田町にあり、ことし3月末時点で、従業員合わせて540人が自動車向けのエアバッグやシートベルトの製造などにあたっています。

タカタはグループ会社を含め、国内には滋賀県と佐賀県に製造拠点があります。

このうち佐賀県には完全子会社のタカタ九州の工場が多久市と有田町の2か所にあり、エアバッグやシートベルトの製造などを行っています。

会社によりますと、このうち、多久市の工場は25年前の平成4年から操業していて従業員410人余り、自動車向けのエアバッグやシートベルトの製造を手がけていて、特に、エアバッグは国内で唯一の製造拠点です。

また、有田町の工場は平成20年に創業を始めました。従業員は120人余りで、シートベルトの製造のほか、新製品の安全基準などの適応実験や評価にあたっています。

2つの工場を合わせたタカタ九州の平成27年度の売り上げはおよそ390億円です。



No.166 タカタ 民事再生法の適用申請 東京地裁に受理される



[2017年06月26日 NEWS WEBより]

<http://www.asiaq.net>

～上級者向け ニュース記事OP～

タカタ 民事再生法の適用申請 東京地裁に受理される

●経営破綻の経緯

タカタが経営破綻に追い込まれた原因はエアバッグのリコール問題でした。

タカタが製造したエアバッグが事故の衝撃などで膨らむ際に金属の破片が飛び散るおそれがあるとして、2013年以降、アメリカや日本など世界各地でリコールが拡大しました。

アメリカの運輸当局などによりますと、アメリカではタカタのエアバッグが原因となった事故で合わせて11人が死亡したほか、日本でも2人がけがをしたということです。

事態をより深刻化させたのはリコールへの対応です。エアバッグの不具合を把握してからリコールを実施するまでに時間がかかり、リコールの範囲を速やかに広げなかったとして、批判が高まりました。

ことし1月には虚偽の報告を作成して自動車メーカーに欠陥がある製品を購入させていたとして、アメリカの司法省がタカタの元幹部3人を詐欺などの罪で起訴しました。

リコールによる部品の交換費用は総額で1兆円を超えます。タカタは自主再建を目指して企業どうしの話し合いによる「私的整理」での再建を主張し、リコールの費用を肩代わりしている自動車メーカー各社に債権放棄、借金の棒引きを求めました。しかし、メーカー側は同意せず、裁判所の管理下で経営の再建を進める「法的整理」のほうが公平で透明性が高いと主張し、協議は難航していました。

タカタの負債総額は自動車メーカーが肩代わりしているリコールの費用を含めて、1兆円を超えています。この負債額は日本の製造業としては過去最大の規模の経営破綻となります。

●日本でも被害

タカタのエアバッグでは日本国内でも異常破裂が起きて一部が刑事事件になっています。

国土交通省によりますと、国内で記録が残る平成23年以降、これまでに交通事故に伴うエアバッグの異常破裂が7件起きて2人がけがをしています。

このうち、おとし10月、静岡県伊東市で乗用車がトラックに追突した事故では助手席側のエアバッグが異常破裂して神奈川県60代の女性が大けがをしました。

この事故について、警察は、エアバッグがリコールの対象になっていたのに、タカタや日産自動車が、交換や取り外しなどの対応を取らなかったことが、大けがにつながったとして、今月16日に両社の安全管理の担当者を業務上過失傷害の疑いで書類送検しています。